

## 知事あいさつ

本日は、初開催になります県津波防災セミナーに大勢の皆さんご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

今、皆さんと一緒に黙とうをささげさせていただきましてけれども、1年前の3月11日14時46分に発生した東日本大震災、東北3県を中心に多くの犠牲者、そしてまた今なお避難生活をはじめ、復興に向けて一生懸命頑張っている多数の皆さんがいっぱいいます。あらためて心からお悔やみとお見舞いを申し上げさせていただきたいと思います。

この3月11日の震災以降、被害のなかったすべての地域におきまして、多くの方々が、自分たちでできることをしたい、そんな思いで繋がっていきました。もちろん、個人個人のあるいはグループの支援というものもありましたけれども、愛媛県では、県下の市町と共同で様々な支援体制を組んでまいったところでもあります。

物の支援、これにつきましては、刻一刻と変わるニーズを的確に把握する中で、愛媛チームでの物の支援を行ったり、あるいは当初の救出・救命から復旧・復興に至る段階で人的に必要なニーズも変わってまいりますので、これまた愛媛チームですべての市町で派遣をしようということで、この一年間に愛媛県からは約2,000名を超える方々が被災地に入り、現在も復興段階におけるところの土木技師を中心とした、あるいは養護教諭の先生を中心とした、派遣隊が現地で頑張っているということでございます。

また、「愛媛笑顔の助け合い基金」を創設しまして、県民の皆さんに広くお気持ちを寄せいただきましたこの基金を原資にいたしまして、震災で修学旅行に行けなくなってしまった東北県の高校に呼びかけさせていただきまして、ちょうど来週最後の一校となりますけれども、石巻の好文館高校がいっぱいいますけれども、岩手県から1校、宮城県から3校、福島県から6校、計1250名の高校生の皆さんが修学旅行で来県をされました。その時には愛媛県内の高校にも立ち上がっていただきまして、それぞれの学校と交流していただくことにより、愛媛の高校生にもその交流を通じて人を支える価値の尊さというものを学ぶ機会としていただけているのではないかとこのように思っております。

さて、この震災は愛媛県にとりましても、地震災害というものの備えについて根本から考え直す機会をもたらすことになりました。その結果として、様々な専門家の皆さんにご協力をいただきまして、「地域津波対策検討会」を発足し、ここでの議論というものを今日報告をいただき、また今後の地域防災計画へと反映させていく予定になっているところでもあります。

また、今年の1月には、初めて愛南町で津波避難訓練というものを実施させていただきました。これを全体一気にというわけにはなかなかいかないので、ひとつのモデル地区を設定いたしまして、そこに関係者が集っていただき、その避難訓練を見学することによって他の地域にも広げていくという手法をとらせていただきましたけれども、実施してみると色々な課題が浮き彫りになってくるわけでもあります。

その最たるものが、まず真っ先に人を救う命の道、緊急避難路の問題でありました。

私も愛南町の方に当日1日行かせていただきましたけれども、場所によっては道が狭い、急峻、あるいは道になっていないような状況のところもあるということが大きな問題であるというふうに考えたわけであります。

これにつきましては現在県議会開会中でありますけれども、議会に新しく2年間で一気にこうした人の命を救う道であるという認識のもとに、市町と一緒に整備を図ろうというふうな事業をあげさせていただいております。こうした一時的な避難路につきましては市町の事業になるわけでありますけれども、加速をするためには県の方でも補助制度を設け、短期間のうちに仕上げるというふうなことを狙いとしているところでありまして、2年間で市町で、緊急避難路につきましては一気に整備が進むというふうに思っております。

ただ、いくら整備が進んでいっても、活用できなければ意味がないわけでありまして、ともかく警報が出たら何をさておいても逃げる。たとえ無駄足になっても逃げる。これが命を救う最大の力になるわけでありまして、これは各地域の日々の意識、そしてまた避難訓練の積み重ねにかかっておりますので、ぜひともよろしく願い申し上げたいと思っております。

そして、今日はたくさんお越しいただいておりますけれども、昨年からは各地域の自主防災組織の強化を働きかけさせていただくなかで、それぞれの防災組織の中にリーダーシップを発揮していただく防災士の資格取得者を作っていくというふうな事業を立ち上げさせていただいております。これはかつての松山市長時代から松山市で行っていた事業でありまして、今回、県の補助制度と市町の補助制度を一緒にしまして、防災士を計画的にすべての地域、自主防災組織で誕生させていくというふうな、これも一気呵成の試みを今実施している最中でありまして、こうした防災士の皆さんが誕生することによりまして、自主防災組織を作ることは容易いのですが、そこに命を、魂を吹き込むことにつながる、そんなふうなことを期待しておこしている事業でございます。ぜひとも防災士の皆さんの今後の積極的な活躍を心からお願いを申し上げる次第でございます。

いずれにいたしましても、災害というものは、いつ、どこでやってくるかは誰も予測できません。来ないに越したことはありませんけれども、やはり事態というのは来るということを前提に、最悪の事態が来るということを前提に備えをしていくことが重要でございます。

今日のセミナーを通じまして、また皆さんの意識が一層高まり、そしてそれぞれの地域でまたこのセミナーの課題というものが実施に移されることを心から期待して止まないところでございます。

11日という休日の日、そしてまた、震災が起こって一周年というこの日にセミナーを行うことを、皆さんに大変ご足労をいただきましたけれども、有意義なセミナーになることを心から祈念申し上げましてごあいさつとさせていただきます。

本日はありがとうございました。